

八重山地域におけるオニヒトデ対策の方針

1. 基本方針

大発生に至っていない石西礁湖及び石垣島周辺海域においては、大発生を防ぐための予防的駆除を行う海域と、大発生に至ってしまった場合に最終的に保護すべき海域(最重要保全区域)を定め、モニタリングと駆除を実施する。

2. モニタリングの実施

1) モニタリング調査の継続

オニヒトデ簡易モニタリング調査を継続的に実施し、オニヒトデの発生状況を把握するとともに、駆除事業の効果を分析する。

2) 聞き取り調査などによるオニヒトデ発生状況の把握

駆除の成果を漁協に掲示するとともに情報の提供を求めるポスターの掲示などを検討する。

3. 駆除を実施する海域の設定

オニヒトデの発生初期(現段階)と、万が一オニヒトデが大発生した場合に優先的駆除を実施する海域を予め定め、重点的な駆除を実施する。

1) 予防的駆除を実施すべき海域

現段階で個体密度の高い黒島北東沖、マルグー、竹富島南、ユイサーグチ、カナラグチ、名蔵湾を、予防的駆除を実施すべき海域として選定。

2) 最重要保全区域

最重要保全区域は、各機関が保全すべきと考える海域であり、かつ保全できる範囲に限定し設定。最重要保全区域に設定された海域については各機関合同で保全(モニタリングと駆除)に当たる。

【検討課題1】最重要保全区域の設定

候補となるのは、海中公園地区及び指定予定海域の他、例えば、以下のような海域。

○サンゴ幼生の供給源である海域

- ・成熟した群体が高被度で分布している

○オニヒトデ以外の攪乱を受けにくい海域

- ・白化の影響が軽微

<http://www.coremoc.go.jp/onihitode/houshin.html>

(環境省国際サンゴ礁研究・モニタリングセンターHPのコピー)

- ・赤土の堆積が少ない
- 保全しやすい海域
 - ・潮流がそれほど激しくない
 - ・保全可能な狭い海域
- 利用上重要な海域
 - ・漁業利用
 - ・観光利用

4. 戦略的、重点的な駆除の実施

重要海域やその周辺で集中的に駆除を実施。

- 1) 現段階においては、オニヒトデを石西礁湖内に増加させないために、予防的駆除を黒島北東沖、マルグー、竹富島南、ユイサーグチ、カナラグチ、名蔵湾で実施。
- 2) 最重要保全区域はその周辺を含め定期的にモニタリングを行い、大発生が起こってしまった場合は最終防衛緯線として駆除する。
- 3) ダイビング協会は、ダイビングポイントについて日常的にモニタリングと駆除を実施する。

【検討課題2】大発生であるとどのように判断するか
モニタリングにおける目撃数と目撃箇所数で判断。
→沖縄県オニヒトデ対策会議で提言、専門家の指導を仰ぐ。

5. 連絡会議の継続

引き続き八重山地区オニヒトデ対策連絡会議を開催し、オニヒトデに関する情報交換を行うほか、最重要保全区域の設定や大発生か否かの判断について協議の上決定する。また、協議内容や決定事項については沖縄県が開催するオニヒトデ会議において報告等を行うこととする。